



第 29 回 WFB 世界仏教徒会議 第 20 回 WFBY 世界仏教徒青年会議 第 11 回 WBU 世界仏教徒大学会議 日本大会 報告

公益財団法人全日本仏教会(JBF/以下本会)は、11月5日(月)～9日(金)にかけて「第29回WFB世界仏教徒会議・第20回WFBY世界仏教徒青年会議・第11回WBU世界仏教徒大学会議 日本大会」を開催し、各種会議体・歓迎レセプションを千葉県成田市にあるマロウドインターナショナルホテル成田において、世界平和祈願法要・記念式典・シンポジウムを神奈川県横浜市の曹洞宗大本山總持寺にて開催いたしました。

本大会では、「Compassion in Action(慈悲の行動)」をテーマに掲げ、世界各国から約300名の仏教徒が参加し、仏教の示す大きな柱である「智慧」と「慈悲」の根底にある「縁」の教えに基づいた「慈悲の行動」について会議がなされました。また、世界平和祈願法要において、世界の仏教徒とともに、国内の加盟団体、賛助会員、政界、関係団体、寺院や檀信徒が一堂に会し、世界平和と国内外で発生した災害で犠牲となられた多くの尊いいのちの追悼と被災地の早期復興を祈願いたしました。シンポジウムでは、「Creating Hope in Life and Death(生死の中に見出す希望)」をテーマとして、社会参画仏教(エンゲージド・ブディズム)という観点から、講師やパネリストが関わる活動について深く学びました。

世界仏教徒連盟(WFB)とは世界の仏教徒が交流友好親善を図るとともに、仏陀の崇高な教義の普及と世界平和への貢献を目的に、1950(昭和25)年に設立され、本会はわが国唯一のセンターとして加盟し、最高顧問、副会長、執行役員、人道支援委員会委員長、副事務総長を務めています。設立以来、連盟最高の議決機関である世界仏教徒会議(WFB 会議)が約2年に一度開催され、各種の活動報告がされるとともに、組織の見直しや将来の活動計画が決定されています。日本では、1952(昭和27)年の第2回大会、1978(昭和53)年の第12回大会、2008(平成20)年の第24回大会について10年ぶり4回目の開催となります。

開催概要

- 第 29 回 WFB 世界仏教徒会議
第 20 回 WFBY 世界仏教徒青年会議
第 11 回 WBU 世界仏教徒大学会議 日本大会

- 各種会議・委員会・歓迎レセプション

会 場 マロウドインターナショナルホテル成田
(千葉県成田市駒井野 763-1)

開催日 2018(平成 30)年 11 月 5 日(月)～
8 日(木)

内 容 ○総会、WFB・WFBY・WBU 各種会議、
委員会

○開会式典・歓迎レセプション(7 日)

参加者 約 350 名



- 世界平和祈願法要・記念式典・シンポジウム

会 場 曹洞宗大本山總持寺
(神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-1)

開催日 2018(平成 30)年 11 月 9 日(金)

内 容 ○世界平和祈願法要

○記念式典

○シンポジウム

○仏教イベント

○閉会式典

○記者会見

参加者 約 900 名



ロゴ / テーマ 「Compassion in Action(慈悲の行動)」



WFB
WFBY・WBU
JAPAN 2018

日本に数多く残されている仏塔のシルエットをモチーフにしています。仏塔背景の白い円は月や太陽を表しています。月や太陽のひかりのように、仏の智慧が万遍なくこの世を照らすことを表現しております。カラーは仏教の七宝の一つ、瑠璃色となっております。

各種会議・委員会(5日～8日)



約2年に一度開催されるWFB会議では、各種委員会の活動報告や、大会テーマに基づいた各国に共通する社会問題への提起のもと、仏教界全体として問題解決に向け意見が活発に交わされます。

本大会では「Compassion in Action(慈悲の行動)」をテーマに掲げ、15の国と地域から約350名の仏教徒が集い、国内外において仏教界が直面している諸問題や社会問題、また世界平和実現に向けた活動を、如何に取り組むべきかを話し合われました。



会議は世界仏教徒連盟(WFB)・世界仏教徒青年連盟(WFBY)・世界仏教徒大学(WBU)の3つのセクションに分かれて開催され、各国センターの代表者が出席します。それぞれで取りまとめられた活動や今後の取り組みについては、全体会議にて報告がされます。

各会議前後には出席者全員による三帰依文(パーリ語・英語・日本語など)の唱和もおこなわれました。



本大会では、WFB 最高顧問 江川辰三本会会長の代理として釜田隆文本会理事長、WFB 副会長として小林正道師、WFB 執行役員として戸松義晴本会事務総長、WFB 人道支援委員会委員長として日比野郁皓師、WFB 副事務総長として東海林良昌師、WFB 日本センター代表として本会国際部職員 2 名が各会議・委員会へ出席いたしました。

小林 WFB 副会長は会議全体を通し、議長として活躍され、日比野 WFB 人道支援委員会委員長からは、この 10 年間に日本で発生した様々な災害に際して、WFB からいただいた迅速な支援に対しての御礼などが述べられました。

各会議や委員会において、仏教界全体の具体的な今後の取り組みと本大会で採択される「宣言文」の内容についても諮られました。第 2 回全体会議では、「2018 年 東京宣言」(別項)として正式に採択され、今後 2 年間の仏教界全体の取り組みが議決されました。



また、本大会中に同時開催されている WFBY 会議では、WFBY 日本センター・全日本仏教青年会(JYBA)の村山博雅師が、全体会議の執行役員選挙において、WFBY の新会長に選出され、満場一致で承認されました。日本、ひいては大乗仏教圏の僧侶が、WFBY 会長に就任するのは、史上初の快挙です。



開会式典・歓迎レセプション(7日)

7日には、開会式典と歓迎レセプションを開催いたしました。開会に先立ち、日本仏教や仏教と社会の繋がりを紹介するオープニングムービーを上映しました。

開会后、江川本会会長より海外参加者に向けて歓迎の挨拶が述べられました。挨拶のなかで、「仏教の示す大きな二本の柱である“智慧”と“慈悲”において、根底には、すべては関わり合いのなかで活かされている存在であるという“縁”の教えがあります。この“縁”に基づいた“慈悲の行動”を世界に向けて発信することこそ、いま世界が陥る混迷を乗り越える唯一の道に連なっていると信じています」と本大会における意義について想いを寄せられました。



続いて、WFB 会議日本大会開催にあたり、タイ国大僧正ソムデット・プラヴァナラータ師より寄せられたメッセージをプラ・シャカヤウンヴァイス WBU 学長(左下)が、パン・ワナメッティ WFB 会長のご挨拶をパロップ・タイアリーWFB 事務総長(中央)がそれぞれ代読されました。また、デンボン・スワンナチャイロプ WFBY 会長(右下)からもご挨拶いただきました。



式典では、WFB 世界仏教徒連盟会長表彰(活動功労者表彰式)も執り行われ、河野太通師(本会第 29 期会長)(左下)と石上智康師(本会第 32 期理事長)(右下)が選出されました。表彰式では、WFB 本部より表彰の理由が述べられ、表彰状とメダル・プレートなどが手渡されました。また、受賞にあたり、お二人から御礼の言葉が述べられました。



河野 太通 (こうの たいつう)
全日本仏教会第 29 期会長
臨済宗妙心寺派元管長
龍門寺住職

受賞理由:全日本仏教会第 29 期会長として、第 25 回世界仏教徒会議スリランカ大会(2010 年コロンボ)において、開会式にて基調講演を行い、参加者一同に感銘を与えるスピーチをされ、世界に WFB の存在意義を示された。併せて、日本仏教が世界各地で布教並びに社会貢献活動を行っていることを紹介し、日本仏教の存在意義を世界に示されたこと。また、WFB 会長が訪日した際、京都にて妙心寺を中心にご案内いただき、日本仏教の文化・伝統を紹介された。



石上 智康 (いわがみ ちこう)
全日本仏教会第 32 期理事長
浄土真宗本願寺派総長

受賞理由:全日本仏教会第 32 期理事長として、故ラーマ 9 世タイ国王の火葬式法要(2017 年 9 月 WFB 主催)で国王の出家された寺院(バンコク)及び王宮に於いて導師を務め、WFB 代表、また日本仏教を代表し、ご回向と WFB 最高顧問である国王に哀悼の意をお示しいただき、WFB とタイ皇族との信頼関係をより一層深めていただいたこと。また、ミャンマーのラカイン州において発生したロヒンギャ難民の人道支援を全日本仏教会理事長として主導的に決断・実践され、WFB・日本仏教を代表して、大会テーマである「慈悲の行動」を実践し、世界に示された。

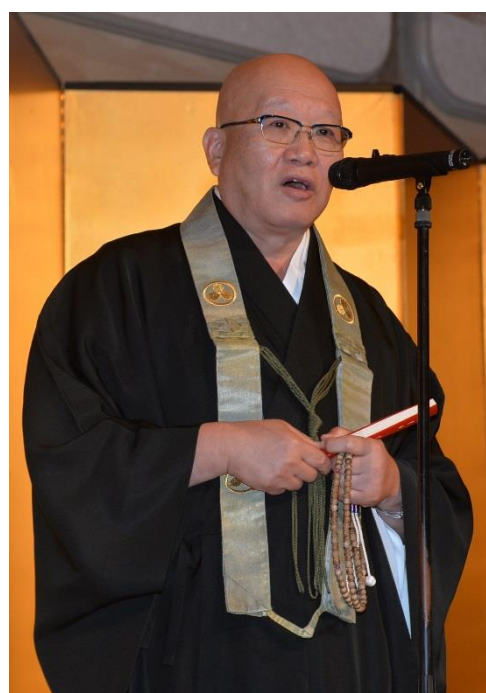


授賞式後、小林 WFB 副会長が閉会の辞を述べ、引き続き歓迎レセプションが行われました。

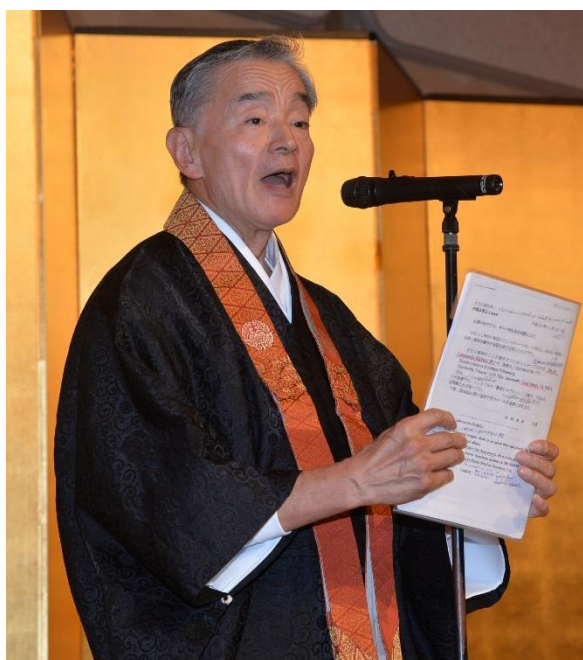
歓迎レセプション冒頭、清興として落語家の桂かい枝さんによる「英語で落語」が催され、日本の古典芸能である落語や、海外参加者と共に挑戦した南京玉すだれが披露され、会場は笑い声と大きな拍手で包まれていました。



続いて、和田大雅本会副会長(左)より開会挨拶が述べられ、乾杯の発声を藤田隆乗本会副会長(右)が務めました。



乾杯発声後、国や宗派の枠を超えて、ベジタリアンの食事を囲みながら和やかに懇談がなされました。
レセプションでは、WFB 会議日本大会の開催に際し寄せられた祝電の披露や、WFB 本部と本会の記念品贈呈式等が行われました。



閉会挨拶では伊藤正導本会副会長が、日本語と英語の両方でスピーチをされ、盛会のうちに幕を閉じました。

世界平和祈願法要・記念式典・シンポジウム(9日)

9日は神奈川県横浜市にある曹洞宗大本山總持寺に会場を移し、世界平和祈願法要を厳修、記念式典とシンポジウムを開催いたしました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、各宗派のキャラクターとともに、總持寺関係の幼稚園並びに保育園の園児たちに元気に出迎えられ、海外参加の方々も笑顔で手を振って応えていました。また、国内からも600名の参加があり、法要会場である大祖堂は満堂となりました。



法要では、江川辰三本会会長を御導師として、出席者とともに世界平和を祈願いたしました。

法要終了後、記念式典を開式し、主催者挨拶として釜田本会理事長、パロップ WFB 事務総長が挨拶されました。続いて、ご来賓として、公務のため欠席された安倍晋三内閣総理大臣の代理として、衆議院議員 岸信夫様(左下)、公益財団法人日本宗教連盟理事長 田中恆清様(中央)お二方にご挨拶を賜りました。最後に、WFBY の日本センターであり仏教イベントの主催者である JYBA を代表して倉島隆行理事長(右下)が挨拶をいたしました。



記念式典終了後、大祖堂正面にて記念撮影を行い、参加者全員笑顔で撮影に臨んでいました。



各加盟団体の管長猥下、ご門主、役職者の皆様にご参集いただいたの記念撮影は圧巻でした。

記念撮影終了後、海外参加者は三松閣へ移動し、昼食として曹洞宗僧侶が作る精進御膳をいただきました。食前には僧侶に合わせて合掌し、五観の偈をお唱えしました。どの料理も精進料理とは思えないほど見た目も味も最高のものをご提供いただきました。



昼食会場にもなった三松閣 1 階では、午後から JYBA による仏教イベントが開催され、加盟している各宗派青年会による、それぞれの特徴を生かした宗派を PR するブースや念珠作りなどの体験コーナーも設置されていました。また、精進ラーメンや精進ピザ、精進カレーなど趣向を凝らした食の体験もでき、海外参加者はもちろん、国内参加者にも大変好評でした。



午後 1 時からは、三松閣 4 階の大講堂においてシンポジウムを開催いたしました。基調講演としてアメリカで僧侶・文化人類学者として活躍される、ジョアン・ハリファックス師を講師に迎え、「Creating Hope in Life and Death(生死の中に見出す希望)」をシンポジウムテーマに、社会参画仏教(エンゲージド・ブディズム)という観点から、自身の取り組みである終末期ケアの現場や刑務所での活動に焦点を当て、「智慧にもとづく希望」についてお話いただきました。



ハリファックス師は、現代は世界の歴史的にも、チャレンジの多い勇敢な時代にあり、私たちにとって、問題に関わっていくためには、苦しみと苦しみからの解放の両方、そして無力感と智慧にもとづいた希望の両方、これらすべてを含む全体を認識することが必要であると語られました。また、仏教的視点による「希望」とは恐れずに行動することであり、無力感に対する勝利、恐れに対する勝利であると信じてやみませんと訴えかけられました。

休憩をはさみ、スピーカーとして、臨濟宗妙心寺派僧侶である根本紹徹師と曹洞宗僧侶である久間泰弘師の両名による実体験を通したお話をいただきました。



若者を中心に自死防止相談活動を行っている根本師は、若者の死因の1位が自殺であり、自殺念慮者の共通点は孤独に帰着すると語り、「一緒に悩める仲間」の必要性を説かれました。また、そのために取り組んでいる様々な活動について報告をされました。

2011年3月に発生した東日本大震災以来、被災地の復興支援活動に従事されている久間師は、「7年半経った東日本大震災は終わっていません」と語り、今なお続く被災地の現状を報告されました。特に、福島県の子どもの現状について報告され、震災に関して“風化”と“無関心”への危機感を訴え、世間が忘れていく大切なものを喚起し続けることが宗教者としての使命ではないかと呼びかけられました。



続いて、武蔵野大学名誉教授であり浄土真宗本願寺派僧侶でもあるケネス・タナカ師と、コーディネーターとして戸松本会事務総長を交えてのフリートークを行いました。参加者からの拍手が鳴りやまない中、シンポジウムは盛況に終わりました。シンポジウムへの参加者は定員であった300名を超え、どなたも最後まで真剣に聴講されていました。



引き続き、同会場にて閉会式典を行いました。はじめに、タイ国王ラーマ 10 世より拝受した祝辞を駐日タイ国特命全権大使バンサーン・ブンナーク閣下(左)に、タイ国プラユット・チャンオチャ首相の祝辞を WFB アドバイザー タネル・スチャリクル博士(右)にそれぞれ代読していただきました。



続いて、釜田本会理事長が挨拶を述べ、小林 WFB 副会長、シャカヤ WBU 学長、村山 WFBY 新会長それぞれに、会議によって採択された「2018 年 東京宣言」に基づく今後の目標と、各センター代表者と出席者への慰労と感謝の意が述べられました。

その後、パロップ WFB 事務総長と釜田本会理事長の両名に登壇いただき、日本大会主催者である WFB 日本センター(JBF)より WFB 本部へ大会旗返還のセレモニーを行いました。今後大会旗は、次回開催を予定しているセンターに引き継がれます。韓国で開催された前回大会後より 2 年間にわたってお預かりしていた大会旗を、釜田本会理事長よりパロップ WFB 事務総長の手に返還をさせていただき閉会式典が閉式、WFB 世界仏教徒会議日本大会は無事に円成いたしました。





大会終了後、会場を同じくして記者会見を開催いたしました。会見には、パロップ WFB 事務総長、村山 WFBY 新会長、シャカヤ WBU 学長、ジョアン・ハリファックス講師、倉島 JYBA 理事長、釜田本会理事長、戸松本会事務総長に出席いただき、この度の WFB 大会で採択された「2018 年 東京宣言」の発表と宣言を受けて、本会をはじめとした日本の伝統仏教界が取り組むべき事項について釜田本会理事長より発表いただきました。

記者からの質問は、10 年ぶりに開催された日本大会についての意義や、今大会で採択された「2018 東京宣言」を受けての具体的な取り組み、村山 WFBY 新会長に日本の僧侶として史上初めて就任するにあたっての抱負など多岐にわたり、出席者の皆様には、すべて真摯にお答えいただきました。



最後に、財団創立 60 周年記念事業として開催しました WFB 大会は、皆様のおかげをもちまして無事円成することが出来ました。昨年開催しました財団創立 60 周年記念式典・全日本仏教徒会議福島大会に引き続き、ご厚情賜りましたこと衷心より御礼申し上げます。

本会は仏教の教えを社会に広めるとともに、伝統仏教界を隆盛すべく尽力してまいりますので、今後ともご教導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

Tokyo Declaration 2018

Compassion in Action

—Creating Hope in Life and Death—

The 29th General Conference of the World Fellowship of Buddhists, the 20th General Conference of the World Fellowship of Buddhist Youth, the 11th meeting of the World Buddhist University Council were held from the 5th to 9th of November B.E. 2561 (2018) in Narita, Japan under the theme of “Compassion in Action”.

Shakyamuni Buddha said: “Sabbe Sattā Bhavantu Sukhitattā” (may all beings be well and happy). Accordingly, we Buddhists wish for the happiness of all sentient beings. In order to embody that wish, the participants of the 29th General Conference do hereby declare that:

- We encourage a lifestyle that is environmentally responsible such as the reduction of wasteful consumption, recycling and adoption of renewable energy resources.
- We are committed to providing relief for the victims of natural disasters, such as floods, earthquakes and tsunamis through effective material and spiritual support.
- We support education for children, who are our future. The WFB and WFBY are offering support for students in Nepal whose education has been disrupted by the 2015 earthquake.
- We provide assistance to the marginalised and those facing personal crisis, and also their friends and families to offer them hope. This includes support for those living in depopulated areas, support for nursing and end of life care.
- We uphold the inherent dignity, equality and fundamental rights of all members of the human family. For example, promoting diversity and inclusion, non-violence, protection of the rights of minority groups and supporting refugees.
- We support the implementation of the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs). For example, helping impoverished communities develop practical skills to improve their quality of life and increase income.
- We encourage interfaith harmony through open dialogue, working together and peaceful co-operation.

2018年 東京宣言

慈悲の行動

—生死の中に見出す希望—

仏暦 2561 年（2018 年）11 月 5 日から 11 月 9 日まで日本の成田市において、テーマ「慈悲の行動」の下、第 29 回 WFB 世界仏教徒会議、第 20 回 WFBY 世界仏教徒青年会議、第 11 回 WBU 世界仏教徒大学会議 日本大会が開催されました。

釈迦牟尼仏陀は「生きとし生けるものが幸せでありますように」と仰いました。従って、私たち仏教徒はすべての衆生（生きとし生けるもの）の幸せを願います。この願いを現実のものとするために、第 29 回 WFB 世界仏教徒会議の参加者は以下のことを宣言します。

— 私たちは、無駄な消費の削減、リサイクル、再生可能エネルギー資源の採用など、環境に責任をもった生活スタイルを推奨します。

— 私たちは、洪水・地震・津波などの自然災害の被災者に必要な物資や心のケアを通して安心を与えることに尽力します。

— 私たちは、未来を担う子供たちの教育を支援します。世界仏教徒連盟（WFB）と世界仏教徒青年連盟（WFBY）は、2015 年の地震によって教育の機会が奪われたネパールの子供たちの支援をしています。

— 私たちは、社会的に無視されている人々、個人的な危機に直面する人々、そして彼らの友人・家族にも希望を与える手助けをします。これは、過疎の地域に住む人々への支援や終末期ケアや介護の支援も含みます。

— 私たちは、固有の尊厳（本質的に備わっている性質）、平等性、すべての人類の基本的人権を支持します。例えば、多様性と受容性、非暴力（死刑、ロヒンギャ問題など）、社会的少数者（マイノリティーグループ：LGBTQ など）の権利の保護を促進し、難民を支援します。

— 私たちは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現を支援します。例えば、貧困集落が生活の質を改善し、収入を増やすことができるような実用技術を身に付ける手助けをします。

— 私たちは、諸宗教間の率直な対話、協働、平和的な協力を通して世界平和の実現を目指します。



〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 明照会館 2F

TEL:03-3437-9275

Written by JBF33thDiv

Date Created:21/Nov./2018(H30)